

秋分の日とお彼岸

太陽の中心が秋分点上にきたときを「秋分の日」といいます。

保険税の精算課税

異動届には保険証、納税手帳を

納税手帳を

の場合における基礎控除（本年の場合一「一万円」）だけ、町貢民税の場合のように、扶養控除社会、生命保険控除、専従者控除はありません。基礎控除を差引いた残額が、課税対象となります。

対象世帯	世帯主とその 世帯に係する 被保険者の前 年所得合計額	が	減額される額
(1) 下の世帯	(前年分) 基準	(前年分) 基準	割引等
(2) 十一万円を こえ十一万円で ある被保険者 の世帯を除く とき四方五千円 を加えた所得 額以下の世帯	440円	8 10 4 10	減額等
290円	720円	6 10 6 10	割引等
480円		4 10	減額等

みんなで明るい老後を
としよりを大切に
日本人の平均寿命は、近年著しく伸びて、それにともない老人人口も増加現象も生じてきました。
かくして、社会の中での老人、近代生活の近代化の中で老人、近代生活の中での老人など、日常生活の中でいろいろの問題が起きつゝあります。が、わが国の憲法では、すべての国民に対し、人権の享有を保障しています。もちろん老人の人権についても例外ではありません。

ところが、確かに老人は、社会的にも経済的にも弱い立場におかれてしまおり、その困難がとても多い、充分人権を享有できない場合があります。

肉用牛の改良、増殖はかる

長者ヶ原に畜産センター設置

当町における肉用牛（黒毛和種）無角和種などの飼育状況をみると、昭和三年から八年ごろより始めて、三六〇頭、四年には、ついに一、〇〇〇頭の大台を割るに至り、八三九頭と激減しています。本年当初においては、八六八頭となっています。

セントー設置の目的

こうした現状にあつて、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処しながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうというのがねらいです。この策として、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処ながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうというのがねらいです。この策として、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処ながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうというのがねらいです。この策として、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処ながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうというのがねらいです。この策として、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処ながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうというのがねらいです。この策として、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処ながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうというのがねらいです。この策として、肉用牛繁殖育成センター設置の目的としましては、近時における畜産の需要の増大、農業構造の変化に対する処ながら、肉用牛の改良、増殖を図ろうとい

ういうものであります。また、それに加えて、乳用牛の夏期育成をもあわせ行うことによると、当町地域の畜産業の総合的振興を図らうというわけです。

セントー設置の要件

町は国の助成を得て現在の長者ヶ原放牧場のはばかり、野草地の拡張を努め、現在の四五ヘクタールを七〇ヘクタールに拡大します。

この拡張した放牧地の周囲には

柵を設け耕作地といふ方法によ

り草地の簡易施設としては、畜舎、サイロ、乾草舎、農具舎

の他施設、人工授精施設など

などを完備する計画です。

農場の運営については、県有

の生産育成の慣習もあるところ

から、町としましても農家経営

の年間五六頭の生産目標として

おります。

同時にこの自給肥料を加工、調

査保して、飼養管理に万全を期

めましたので、町を事業主体とし、近

く発足する運びになりました。

年に亘り、努力いたしました。

この運動の目標は

この運動の目標